

地域密着型金融の取組事例について

タイトル 営農経済渉外（TAC）の取組み

JA やつしろ（熊本県）

1. 動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域合併や組織整備の過程で、組合員から「親近感がなくなった」「要望をきいてもらえない」「サービスが低下した」等のご意見をいただくようになりました。 ・ このため、組合員・担い手に出向き、声を聞き、その意思を反映するとともに JA 事業を幅広くご利用いただくための対策として、平成 18 年 4 月に営農経済渉外（TAC）専任部署を設置しました。
2. 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ TAC の体制と活動概要は以下のとおりです。 (1) 活動目的 JA 事業の活性化および利用率の向上 (2) 活動内容 組合員への訪問活動を行い、組合員への情報提供、組合員ニーズの JA 運営への反映、組合員ニーズへの迅速なフィードバック、に継続して取り組む。 (3) 機構・体制 経済事業本部長直轄の専任部署として、担当課長 1 名、TAC4 名を設置。 (4) 活動状況 訪問活動：430 先の組合員を選定、月平均 1～2 回の訪問を継続実施。 訪問記録：TAC システムに入力し、データとして保存・共有。 実績検討：週次で課内ミーティングを開催し、訪問状況を確認。 2 ヶ月に 1 度、関係部（営農・購買・金融）同席のもと役員ミーティングを開催し、組合員からの要望や活動状況を JA 内で共有。
3. 成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組合員への訪問活動を繰り返し、相互に情報交換を行い、いただいたニーズに真摯かつ迅速に応えるよう努めることで、より強固な信頼関係を築くことが可能となりました。 ・ この結果、JA を通じた販売・購買の量が増加するなど、JA 事業を幅広くご利用いただけるようになりました。 ・ また、営農・購買にとどまらない、金融ニーズや経営相談などを受ける機会も増加しました。
4. 今後の予定（課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、さらなる組織整備を進めていく過程で、「出向く」体制を中心とした TAC の活動はさらに重要性を増してくると思われます。 ・ 今後とも、継続的な訪問活動に取り組み、組合員との信頼関係をより強固なものにしていくとともに、営農・購買・金融等いただいたニーズに応じ事業間で連携して提案を行い、JA 事業のさらなる利用拡大に向けて取り組んで参ります。